

本時のねらい

・「自己紹介カード」をもとに、自己紹介クイズを作成することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・タブレットを使うことで書くことが苦手な児童に対して苦手意識を軽減し、前向きな気持ちで学習に参加できる。
- ・ロイロノートで作成した互いの自己紹介カードを確認し、クイズや振り返りをする中で、自己や他者に対する興味関心をもつことができる。

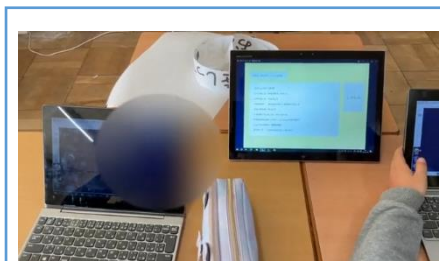
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ロイロノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5 分)	○本時の学習内容とめあてを確認する。 ○前時で行っていた「クイズを作ってみよう」の活動を振り返ることで、本時で行う学習の見通しをもつ。【写真 1】	○前時で学習した内容と関連させたことで、児童が困り感なく、学習活動に取り組みやすくなる。
展開 (35 分)	○デジタル自己紹介カードを作成する。【写真 2】 ○作成した自己紹介カードを交互に友だちと見せ合い、友だちの知らないところを見つける。 ○見せ合いをした後、自己紹介クイズを出し合う。【写真 3】	○自己紹介カード作成前に、教員自作の例（自己紹介カード・クイズ）を示すことで、よりスムーズに活動に向き合うことができる。 ○自己紹介カードを作成する目的を明確にすることで、「ローマ字表を見てタイピングをしたい。」という関心・意欲の向上につながる。 ○ロイロノートの複製（コピー）を活用することで、容易に問題を作成しやすくなる。 ○ロイロノートで作成することで、問題を作成した本人だけでなく、問題を出す際には、相手にも伝わりやすくなる。
まとめ (5 分)	○本時の学習を振り返る。	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】前時のクイズ作りの活動をふりかえる



【写真 2】自己紹介カードの作成



【写真 3】作成したクイズを出し合う

児童生徒の反応や変容

- ・相手はどんなことが得意・苦手なのか、普段はどんなことをしているのかなど、相手の知らなかった一面を知ることができた。
- ・友だちとの相違点を見つけて話すことができた。
- ・自分自身のことや知ってほしいことは何かを考えることで、自己理解が深まった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・前時までに「○○クイズを作ろう」（別単元）の学習を設定したことで、タブレットをスムーズに使用することができたため、日頃より楽しんで学ぶことができた。
- ・ローマ字入力に対して苦手意識をもっている児童も、「自分のことを伝えたい」という思いがあり、ローマ字入力の必要性を強く感じていたため、普段よりローマ字の入力が速くなったり、理解を深めたりできた。（ローマ字習得にも生かすことができる。）
- ・本学習を通常の学級でも行うことで、通常の学級での友だちとの交流に生かすことができる。

本時で育む主な情報活用能力

C-STEP 1, D-STEP 1
J-STEP 2

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。

